

鍛冶田遺跡調査成果の概要

- 1 遺 跡 名 鍛冶田遺跡（かじたいせき）
- 2 遺跡の種別 集落遺跡
- 3 遺跡の時代 弥生時代、古墳時代、平安時代～鎌倉時代
- 4 所 在 地 揖保郡太子町糸井
- 5 調 査 原 因 （主）太子御津線社会資本整備総合交付金事業
- 6 調 査 主 体 兵庫県教育委員会
- 7 調 査 機 関 （公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
久保弘幸副課長、別府洋二副課長
- 8 調査の概要
 - （1）約 2,000 m²の範囲について、6月初旬から調査を実施している（9月下旬に終了予定）。
 - （2）弥生時代中期、古墳時代中期、平安時代後期～鎌倉時代の集落遺跡である。
 - （3）主な遺構と遺物
 - ア 弥生時代中期
 - （ア）遺構 竪穴住居跡 1 棟、方形周溝墓 1 基、水田遺構、柱穴、土坑、溝状遺構など
 - （イ）遺物 土器（壺・甕など）
 - イ 古墳時代中期
 - （ア）遺構 竪穴住居跡 2 棟、柱穴、土坑、溝状遺構など
 - （イ）遺物 土器（壺・甕など）、滑石製勾玉 1 点
 - ウ 平安時代後期～鎌倉時代
 - （ア）遺構 掘立柱建物跡（明確な棟数は検討中）、土坑
 - （イ）遺物 土師器、須恵器、陶磁器など
 - （4）平成 27 年度は約 1,900 m²の範囲で調査を行い、今年度と同時代の竪穴住居跡などからなる遺構の調査を実施した。
- 9 ま と め

昨年度の調査結果と総合すると以下のとおりとなる。

 - （1）弥生時代中期の集落は竪穴住居跡 10 棟、溝状遺構などから構成されており、その他に墓跡（方形周溝墓、土器棺墓の 2 基）が存在する。
 - （2）古墳時代中期の集落は竪穴住居跡 25 棟からなる大規模なもので、揖保川・大津茂川下流域の拠点集落である。
 - （3）平安時代後期～鎌倉時代の掘立柱建物跡は 10 棟を超える規模となることから、荘園（福井荘か）の領主に関連する屋敷跡の可能性が考えられる。
 - （4）今回の調査では、約 500 個の遺構と収納箱約 200 箱の遺物を発見した。



B地区 調査区全景（北西から）



B地区 弥生時代中期の方形周溝墓（北から）



B地区 古墳時代中期の竪穴住居跡（東から）



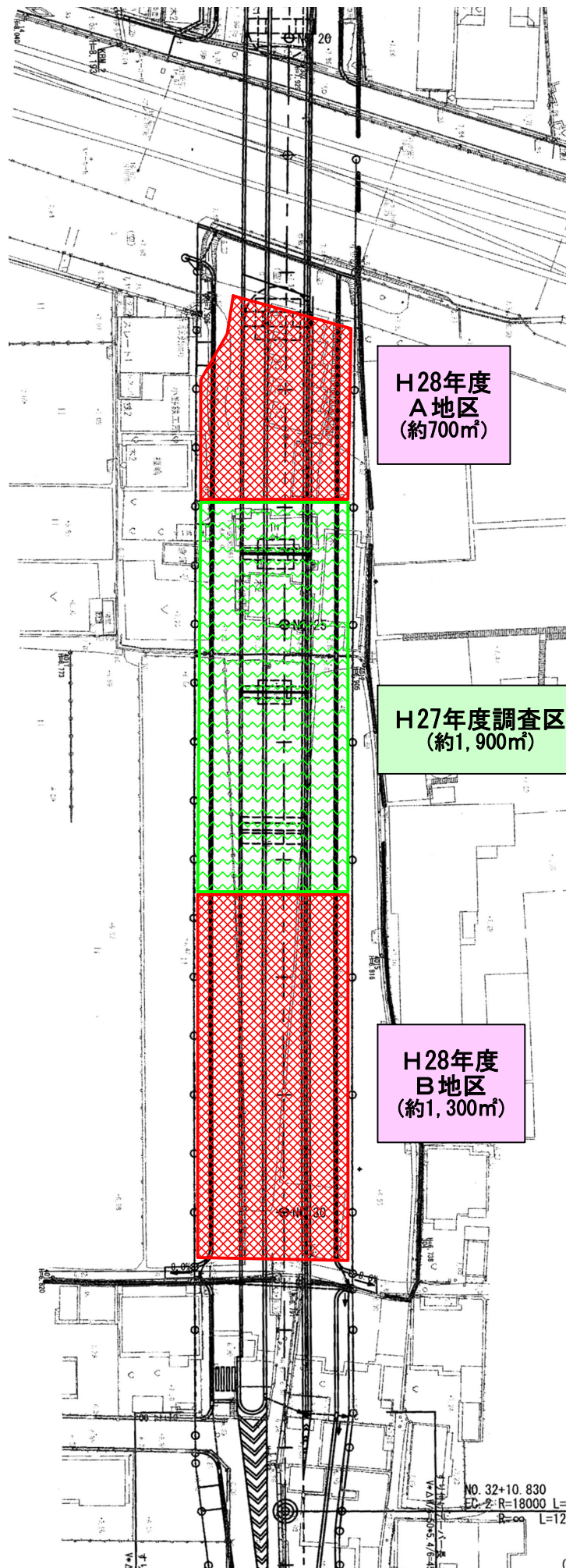
A地区 調査区全景（南から）



A地区 古墳時代中期の竪穴住居跡（南から）



A地区 古墳時代中期の竪穴住居跡内出土の土器（東から）



鍛冶田遺跡 年度別の調査区分割図